

令和6(2024)年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価と改善策

評価基準 ◎十分達成されている ○おおむね達成されている △半分程度達成されている ×努力が必要である

学校運営方針／具体的取組(評価の観点)			アンケート状況			成果(□)と課題(■)	改善策	自己評価
1 安全安心な学校づくりに努める。				教職員(%)	保護者(%)			
(1)	スクールバス	【教職員】 学校は、安全なスクールバス運行や自力通学のため、児童生徒への安全指導や構内でのルールや交通ルールの厳守を徹底している。 【保護者】 学校は、安全なスクールバスの運行や自力通学生徒の安全教育を行っている。	A	71%	62%	☐ 登校時のスクールバスの安全確認は、児童生徒を迎えに来る教師の協力もあり、お互いに誘導の指示を伝えたり確認したりして安全に誘導できた。 ☐ スクールバスの送迎に関する事故、ヒヤリハットの事例を管理職、係、運転手、介護員で共通理解した。 ☐ 新設や新・転入生が乗車するバス停、介護員から報告があったバス停を中心に安全確認を行った。 ■業務委託をしている介護や運転手の対応について係では難しい部分があった。 ■安全への取組について、保護者の一部には伝わっていなかった。	・スクールバスの運行上の課題が上がったとき、管理職を通してバス会社に話してもらうことで早期解決につながったので、引き続き行う。 ・ホームページやInstagram、学部学級だより等で安全なスクールバスの運行や安全教育の取組についての適宜発信する。	◎
			B	29%	28%			
			C	0%	6%			
			D	0%	0%			
			E	0%	4%			
(2)	学校安全	【教職員】 学校は、危機管理意識を高めるため、安全管理に関する知識を得られるよう各種避難訓練や職員研修等を行っている。 【保護者】 学校は、校内で実施した安全教育について情報提供を行い、保護者と連携を図っている。	A	82%	61%	we4r4r5	・救命救急研修は、外部講師(消防署職員)を依頼できないか検討する。 ・研修への意欲低下を防ぐため、研修の初めに事故の事例を紹介したり、研修の意義や必要性の説明をしたりする。 ・各自振り返りができるように研修後のアンケートを必ず取る。 ・避難訓練以外の安全に関わる学習の様子を速やかに伝えらるようホームページやInstagramを活用する。	◎
			B	18%	37%			
			C	0%	1%			
			D	0%	0%			
			E	0%	1%			
(3)	健康管理	【教職員】 学校は、児童生徒の健康に関する情報を収集、共有し健康管理を適切に行っている。 【保護者】 学校は、健康に関する情報提供を行い、保護者と連携して児童生徒の健康維持・増進を図っている。	A	75%	67%	☐ 朝の健康観察により、児童生徒の体調や感染症の動向、昼食時の内服についての情報を収集することができた。 ☐ 児童生徒の健康に関する情報を一覧表にまとめ、校務用データに最新の情報を提供できた。 ■上記のデータについて、各職員がどの程度閲覧し、把握しているかが不明であり、確実に情報共有できているとは言い難い。 ☐ 身長体重カードや保健だより等の各種発行物やホームページ、学校保健委員会を通して、保護者等に健康に関する情報や学校保健活動について情報提供できた。	・児童生徒の健康に関する情報の職員周知について、年度初めだけでなく、学期ごとに周知を行う。 ・ホームページやInstagramを活用し、学校保健活動や健康に関する情報を周知する機会を増やす。	◎
			B	22%	28%			
			C	0%	3%			
			D	0%	0%			
			E	3%	3%			

(4)	いじめ	【教職員】 学校は、いじめの未然防止・早期発見に向けた研修や情報共有を十分に行い、組織的な対応を行っている。	A	65%	60%	□いじめに関するアンケートでは、1学期2学期とも「いじめがない」という回答が100％であった。教職員による発見や児童生徒からの訴えによるいじめの認知件数も0件であった。	・引き続き、いじめの早期発見・早期解決のため、保護者等との連絡を密にしたり、日頃から児童生徒の細かな様子を見守ったりしていく。 ・いじめの疑いがあった場合は、すぐ、管理職に報告し、組織として初期対応を適切に行うことで、いじめの重大事態に発展しないようにする。	○
		B	31%	28%				
		C	0%	3%				
		D	0%	0%				
		E	4%	10%				
(5)	人権	【教職員】 学校は、児童生徒の人権を尊重し、自己肯定感を高められるよう一人一人の実態に配慮した授業や指導を行っている。	A	53%	60%	□人権係と連携し、全学部で人権教育を実施している。 □教員の人権意識向上のため、外部講師を招いて人権研修を実施した。 □小学部・中学部は1・2学期に1回ずつ人権教育の授業を実施した。高等部は12月の人権週間に合わせて人権教育の授業を行ったので、アンケートには反映されていない。	・人権教育の授業の内容や生徒が人権目標を発表している様子など日頃児童生徒が行っている活動をInstagramやホームページを活用して保護者に伝える。	○
		B	43%	22%				
		C	3%	6%				
		D	0%	0%				
		E	2%	13%				
		【保護者】 学校は、いじめの未然防止・早期発見のため日々の見守りや聞き取り、アンケート調査等を十分に行い、いじめの疑いがあった際には、適切な対応をしている。						
		【保護者】 学校は、人権意識を育む指導をしている。						

＜学校関係者評価＞

- ・保護者の立場としては、学校評価に正直に答えようとする「分からない」という回答になってしまうことがある。
- ・どの学校でも教員と保護者との回答にギャップがあるのが現状である。その中でも結果を良く分析されているので、今後も取り組んでほしい。
- ・ICT機器の活用について「分からない」という回答が多いとのことなので、ICT活用に特化した授業を授業参観等で見てもらおうと良いのではないかな。
- ・学校支援ボランティアやバスの運転手等にもアンケートを行っているのは、良い試みである。同じ仕事を続けていると社会の常識からずれてしまうこともあるので、幅広い職種の方から学校を客観的に評価してもらえるとよい。その際、アンケートの文言を抽象的な表現ではなく、具体的な言葉で質問できるとよいのではないかな。
- ・災害時には学校だけでなく、地域とどう連携を図るかを考えておくとも良い。地元の消防団や自治会にも声をかけて、自分達だけでは気が付かない点を指摘していただけると良い。

＜評価結果に基づく今後の改善方策等＞

- 安全安心な学校づくりに努める
 - ・危機管理に関する訓練や研修を行っていくとともに、学校から保護者への連絡だけでなく、災害時に保護者から学校への連絡についても訓練できるように検討する。また、各種訓練の際に、学校だけでなく、地域の関係する方にも参加してもらえるように検討する。
- 児童生徒一人一人が生き生きと活動できる学校づくりに努める
 - ・引き続き家庭と連携していきながら今年度の成果及び反省を生かして指導を継続する。
 - ・各種指導計画の改善を勧め、教師の指導力向上及び授業改善に努める。また、全職員が公開授業に参加できるような計画について検討する。
 - ・個の実態に応じてICT機器を活用し、学習効果が高かった取組や生徒の主体的な活動が見られた取組等が校内で共有できるようにする。ICT機器を活用した授業参観を検討する。
- 地域に開かれた学校の実現を図る
 - ・授業参観の機会を増やした。より活発な参加を促すよう、参加方法を改めて周知する。

アンケート全体的に

- ・アンケートの文言を評価しやすいように具体的な言葉にできるように見直しを行う。

令和6(2024)年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価と改善策

評価基準 ◎十分達成されている ○おおむね達成されている △半分程度達成されている ×努力が必要である

学校運営方針／具体的取組(評価の観点)		アンケート状況			成果(□)と課題(■)	改善策	自己評価
2 児童生徒一人一人が生き生きと活動できる学校づくりに努める。			教職員(%)	保護者(%)			
(1)小学部	【教職員】 学校は児童が一人一人が見通しをもち、自信をもってできることを増やすための効果的な指導を行っている。 【保護者】 学校は、一人一人が学校生活の中で自信をもってできることを増やすための指導を行っている。	A	61%	63%	□今年度の学部目標は生活の中で取り組むものであり、一人一人のねらいが立てやすかった。また、保護者にもわかりやすく、できるようになったことを伝えやすかった。 □課題別研修や公開授業では評価表を活用し、授業内容や指導の改善を図ってきたことで、児童主体の学習ができた。 ■学級便りや個別懇談などを利用し保護者に児童の様子を伝えているが、E評価(分からない)が3%いる。	・今後も家庭と連携しながら、できることを積み重ねられるようにしていく。 ・引き続き、保護者の理解を促すために、学習の様子についてわかりやすく具体的に説明する機会を増やす。	◎
		B	39%	33%			
		C	0%	0%			
		D	0%	0%			
		E	0%	3%			
(1)中学部	【教職員】 学校は、作業学習における実的な活動を通して数学の力を育成できるよう、生徒の実態に応じた効果的な指導を行っている。 【保護者】 学校は、作業学習の活動場面において数学の力を身に付けられるよう、工夫して指導している。	A	71%	69%	□頑張りカードの活用や振り返り会の実施等により生徒が達成感を味わう機会が増え、働く意欲が向上した。 □数学に関連付けた工程表や評価表を作成・活用しながら各生徒の実態に応じた実践及び指導改善を行い、生徒が作業学習の中で数学力を生かす場面が増えた。 ■今年度の指導実践及び使用教材等を次年度につなげていく。 ■学部全体及び生徒それぞれの取組について、更に家庭への情報のフィードバックの工夫に努める。	・今年度の成果を生かして実践や教材等をまとめ、更に新たな指導法も加えていながら指導の幅を広げ、各生徒の実態に応じた実践をしていく。 ・学部及び個別の取組について、保護者会及び個別懇談、授業参観等で丁寧に説明し、情報を共有していく。	○
		B	29%	19%			
		C	0%	13%			
		D	0%	0%			
		E	0%	0%			
(1)高等部	【教職員】 学校は、作業学習を中心に、生徒の意欲や自信を育てながら、将来の社会生活に必要な知識や行動、態度を身に付けるための指導・支援をしている。 【保護者】 学校は卒業後の社会生活を見据えた課題について、家庭と連携し、生徒が主体的に改善しようと取り組む力の育成を図っている。	A	75%	69%	□「作業学習」において学習、習得すべき「職業」の学習内容を確認し、それらを踏まえた「年間指導計画」「学習内容表」「授業時案」の作成を進めることができた。 □作業班(グループ)ごとの、「授業展開」や「作業環境」の見直しや、改善を図った実践を通して、生徒が目標を意識し主体的に取り組む姿が、より多く見られるようになった。 □個別懇談、保護者会での取組の紹介、作業及び、実習日誌の様式の変更や持ち帰り等、生徒の課題や具体的な取組について、家庭への理解を促す情報提供ができた。 ■より良い「作業学習」の年間指導計画の様式や記載する内容の検討にあてる十分な時間を設けることが難しかった。 ■「作業学習」の「年間指導計画」「学習内容表」「授業時案」の効果的な活用のあり方について検証を進める必要がある。 ■家庭とのより有意義な連携を目指し、実践と検証を継続する必要がある。	・今年度作成した「作業学習」の年間指導計画に基づく授業実践を積む。年間指導計画の様式や記載内容について、また、「年間指導計画」「学習内容表」「授業時案」の効果的な活用について、課題別研修を中心に検証を進める。 ・昨年度の課題別研修から継続する取組として、「作業学習」以外の他教科等で、「職業」の学習内容を反映した年間指導計画に修正し、高等部の学習内容の整理、改善を進める。 ・作業及び実習日誌を介した情報共有の在り方や、生徒の課題及び改善に向けた取組等を通して、保護者の理解と連携を深める関わりを、高等部、進路指導部と連携しながら検証を進める。	◎
		B	20%	22%			
		C	0%	6%			
		D	0%	0%			
		E	5%	3%			

(2)	指導計画	【教職員】 学校は、自立活動と各教科等の指導との密接な関連を図り、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成するとともに、それを基に個々の児童生徒に対し効果的に日々の指導を行っている。	A	54%	71%	☐ 各教員が、自立活動の考え方を基に、一人一人の児童生徒に対する指導を組み立てることができるようになってきたことで、効果的な指導が実現でき、保護者にも根拠に基づいた説明ができるようになってきたのではないかと。 ☒ 個別の指導計画等をより効果的に作成するために、年間学習指導計画を学習指導要領の内容に沿ったものに改善する必要がある。	・全教員に年間指導計画改善の必要性を周知し、教科担当者会を中心に、使いやすい年間指導計画を検討・作成する取組を行っている。	◎
			B	42%	24%			
			C	2%	4%			
			D	0%	0%			
			E	2%	1%			
(3)	学習指導	【教職員】 学校は、PDCAを確実に実行し、児童生徒が興味・関心をもって主体的に学習に取り組めるよう、対話的・体験的な学習の場面を多く取り入れ、学びが深まるような授業づくりに取り組んでいる。	A	56%	69%	☐ 課題別研修等を通して、授業改善を図ったり、学びの様子を知らせたりしたことで、様々な授業において効果的な指導ができつつある。 ☒ 今年度は公開授業を他学部の先生方にも見ていただけるように方法を検討して実施したが、まだ他学部の公開授業や普段の授業の良いところ等を十分に共有できていない。	・よく考えられた授業の例を共有することで、学校全体の授業改善の意識付けにつながるよう、研究授業や公開授業の共有の在り方や他の発信方法を検討する。 ・年間指導計画や単元計画を毎年少しずつ改善し、対話的・体験的な授業を効果的に設定できるように体制作りを行う。	◎
			B	42%	22%			
			C	0%	4%			
			D	0%	0%			
			E	2%	5%			
(4)	情報教育	【教職員】 学校は、発達段階や障害の状態等に応じ、ICT機器を活用した分かりやすい授業を行っている。	A	65%	57%	☐ 自立活動や国語算数(数学)等の授業で、児童生徒の習熟度別にタブレットの無料アプリを活用した。また校外学習の事前学習や、中高等部での調べ学習等など多くの場面でタブレット活用を行っている。 ☒ 学級だよりや授業参観等で保護者に向けて活用の様子をお伝えしたが、E評価が昨年よりも多く、取組について共有できていない。	・引き続き、情報部より無料アプリの情報や機器の活用等について校内で発信し、授業で活用できるようにする。 ・ホームページやInstagram、学部学級だより等で学習の取組について適宜発信を行う。	○
			B	32%	26%			
			C	2%	4%			
			D	0%	0%			
			E	2%	13%			

令和6(2024)年度 教職員・保護者アンケート結果及び評価と改善策

評価基準 ◎十分達成されている ○おおむね達成されている △半分程度達成されている ×努力が必要である

学校運営方針／具体的取組(評価の観点)			アンケート状況			成果(□)と課題(■)	改善策	自己評価
3 地域に開かれた学校の実現を図る。				教職員(%)	保護者(%)			
(1)	情報発信	【教職員】 学校は、ホームページや一斉メール、紙等を効果的に使い分け、保護者等や地域に分かりやすく速やかに情報を伝えている。 【保護者】 学校は、児童生徒の学習の様子や必要な情報を、分かりやすく伝えている。	A	60%	64%	□ホームページの閲覧数やInstagramのフォロー数が増加した。 □他学部の保護者会開催時に授業参観に来校した保護者はのべ40名(1月現在)となり、情報提供の機会を拡充できた。 ■各学部の保護者会と同時開催の全校授業参観では、各学部の保護者会開催日が近いときに参観予定のない開催日に誤って申し込む保護者が散見されたので、周知方法の工夫が必要である。	・保護者懇談会で説明したり、参加の方法について一斉メールで詳細に案内する。	◎
			B	40%	28%			
			C	0%	4%			
			D	0%	0%			
			E	0%	4%			
(2)	外部との連携	【教職員】 学校は、外部に向けた研修会や巡回相談等により特別支援学校のセンター的役割を果たすとともに、地域貢献活動や奉仕作業等、生徒が地域に貢献する機会を設けている。 【保護者】 学校は、児童生徒が地域の人と関わる機会を積極的に設けている。	A	59%	56%	□生徒による公民館清掃や歩道のごみ拾いでは、回を重ねるごとに自治会に本校の活動として周知されてきている。 □お囃子会では、中学部だけでなく小学部高学年ブロックも参加してお囃子体験をさせていただくことができた。 □絵本の読み聞かせでは、事前に打ち合わせをすることで児童の実態に応じた絵本を取り上げていただくことができた。 □産業現場等における実習や社会体験学習、就業体験学習を通して、地域の福祉施設、企業等と関わりをもつことができ、生徒の学習に加え、地域との関わりや、啓発の機会となっている。 ■巡回相談の依頼が何件もあり、ニーズに応じた支援ができた。相談支援部の夏季研修会への参加者が少なかった。	・(保護者の回答において、Cが8%、Eが7%であったことを受け)保護者会や各種通知文書、ホームページ、Instagram等において、地域と関わる機会を設けていることを紹介・発信し、保護者等の認知度を高める。 ・地域の幼保・小・中・高に夏季研修の内容についてのアンケートを取り、よりニーズに応じた支援ができるようにする。	○
			B	41%	29%			
			C	0%	8%			
			D	0%	0%			
			E	0%	7%			
(3)	開かれた学校	【教職員】 学校は、行事やPTA活動、地域住民との交流や学校公開等、保護者等や地域住民が来校する機会を設け、学校や児童生徒についての理解促進を図っている。 【保護者】 学校は、保護者等及び地域やボランティアの方々、放課後等デイサービス、進路関係機関等へ、学校や児童生徒についての理解促進を図っている。	A	63%	57%	□学校見学会とオープンスクールの同時開催を見直したことで、混乱なく案内できた。 □高等部3年生については、進路先、関係機関等、生徒・保護者等を参加者とした「移行支援会議」を実施し、卒業後の生活において必要となる支援について共通理解を図ることができた。	・具体的に取り組んでいることを知ってもらえるようにホームページやInstagram等を活用して案内をするとともに、事後にも活動の様子を知らせるようにする。	○
			B	35%	35%			
			C	0%	3%			
			D	2%	0%			
			E	0%	5%			